

2013.7.19 (東京) 2013.7.26 (大阪)
テーマ: アクティブ・ラーニング時代の図書館

アクティブ・ラーニングを支える 空間・人材, そして戦略 —同志社大学ラーニング・コモンズから問う

同志社大学 学習支援・教育開発センター事務長
社会学部嘱託講師「学術情報利用教育論」

井上真琴

minoue@mail.doshisha.ac.jp



はじめに

図書館員の方に対する個人的な懸念

当初は話題を提供して周囲の耳目を集めたが、ラーニング・コモンズが普及するにつれ、行うべき学習支援の方向と指針を見いだせないまま、ラーニング・コモンズの議論における中心的な位置を失うのではないか。

図書館の専売特許との錯覚に囚われたまま、実は教育工学や学習環境デザインの関係者からは置き去りにされ、逆にラーニング・コモンズ発展を阻害する存在になるおそれがあるのではないか。

▶ 2

はじめに

回避のための方策

- ▶ アクティブ・ラーニングの手法を取り込み，学習科学の知見に立った学術情報リテラシープログラムの企画・開発・実行ができること。
- ▶ 「学術情報(源)がアクティブ・ラーニングにおいて果たす役割」を明示できること。

▶ 3

本日の内容

- I. どのように提案し，何を狙いとしたか
- II. どのような学習環境デザインか
- III. どのような組織・運営体制なのか
- IV. どう学習支援を展開する(つもり)なのか

▶ 4

I. どのように提案し、何を狙いとしたか

事例：ラーニング・コモンズが必要な理由

- ① 高等教育は、学習成果(アウトカムズ)重視に移行
 ↓ シラバス「〇〇ができるようになる」
 「教育」から「学習支援」へ
- ② 学習成果を出すのに、アクティブ・ラーニングは有効
 ↓ ラーニング・ピラミッドを見よ！
- ③ アクティブ・ラーニングは、基本は複数人数で行う
 ↓ 他者という「鏡」を通しバランスをとる
- ④ 協同学習・協調学習の手法を取り入れたい
 ↓ 相互刺激, 相互支援, 葛藤と調整
 (社会性・人間力)
 ↓ ピア・ラーニング, ピア・サポート
- ⑤ 上記を可能にする学習環境が必要

▶ 5

I. どのように提案し、何を狙いとしたか

前頁からの続き

- ⑥ 正課授業の教室＝ラーニング・スタジオ
 ↓
- ⑦ 正課の授業外学習でも同様の学習環境＝
 ラーニング・コモンズ(ラーニング・スタジオと「1対」)
 ↓
- ⑧ ラーニング・コモンズの利用が増えると
 ■ 授業外学習の増大, 単位制度の実質化につながる
 ■ リーディング・アサインメント型の課題ではなく,
具体的な行動のなかで質の高い学びを覚える
 (中教審答申:「学修の質の転換」)
 ↓
- 高等教育の質保証の一翼を担う学習環境の整備

▶ 6

I. どのように提案し、何を狙いとしたか

狙いは、学生の「学びの質向上」

もしも・・・

大学の最終的な目的=学生の「学びの質向上」

FDの目的=教員が変わる⇒ 学生の学びの質向上

間接的関与

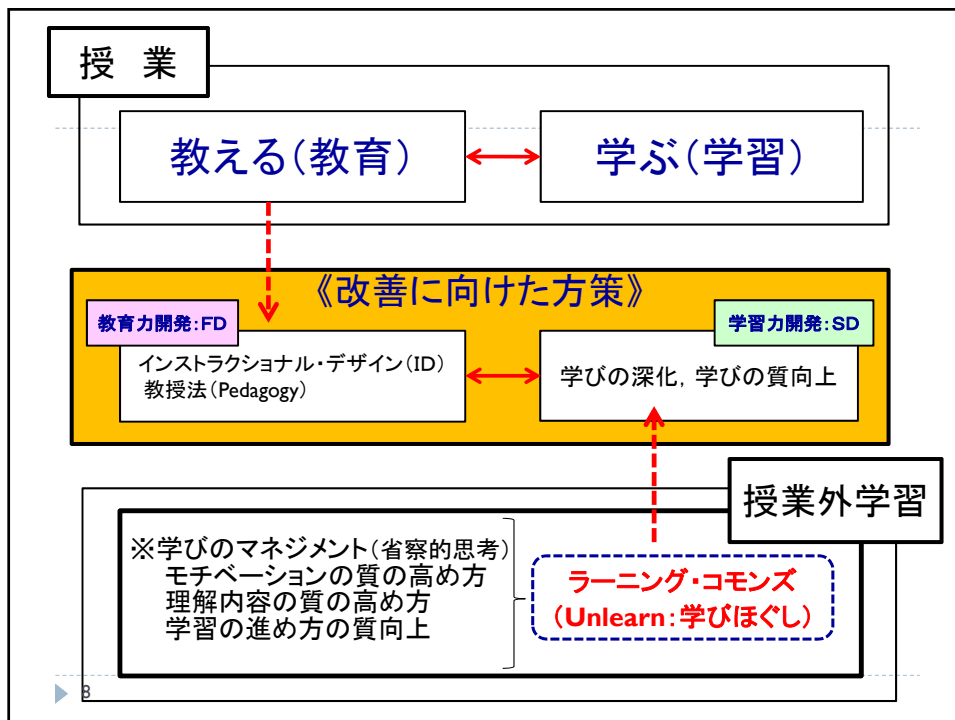
FDの目的=学生の学びの質向上⇒ 教員が変わる

【授業至上主義との訣別】

直接的関与

島根大学・森朋子氏作成スライド「学習研究を基盤とした協働型FD」
(名古屋大学招聘セミナー, 2012.10.17)を参照

▶ 7



▶ 8

II. どのような学習環境デザインか

同志社大学での議論の推移

- 2006年度 ラーニング・コモنزの提案(図書館・情報系部門から)
※正課外プロジェクトやPBL科目の実践を観て
- 2007年度 今出川キャンパス整備計画にラーニング・コモنز
を組み入れ(利用対象:文系学部, 約20,000人)
- 2008年度 ラーニング・コモنز具体化検討委員会(図書館)
- 2009年度 中間案(図書館が中心に議論)
「単なるメディアセンター。ラーニングの仕掛けがない」
-
- 2010年度末 ラーニング・コモنز基本案
- 2011年度 基幹会議で基本計画承認
(1)フロアコンセプト・ゾーニングと機能要件確定
- 2012年度 基幹会議で人的資源要件と管轄部署の承認
(2)専属教職員の雇用配置, 学習支援・教員開発センター

▶ 9

II. どのような学習環境デザインか

空間のコンセプト

- ▶ 面積 2,550㎡(日本最大級)
- ▶ 図書館とは別校舎:教室棟(40,000㎡)
- ▶ 「知的欲望開発空間」が全体コンセプト
- ▶ 目標は主体的な学びの進展,授業外学習の「質」向上
- ▶ 2フロアで構成(各フロアコンセプトの共鳴)
 - 2F:クリエイティブ・コモنز:学びの交流・啓発空間
「学びのコミュニティ」の創出
 - 3F:リサーチ・コモنز:アカデミックスキル育成空間
チュータリング機能(学内初の学習支援組織)

▶ 10

II. どのような学習環境デザインか

空間が備える性格

- ▶ **柔軟性 (Flexibility):**
可変性のある空間, 組合わせの型の机, 持ち運び可能なホワイトボードほか
- ▶ **快適性 (Comfort):**
長時間滞在が可能な休憩ラウンジ
- ▶ **感覚刺激性 (Sensory Stimulation):**
オープンスペース, 他者の学習行動が「情報」になる空間
認知的徒弟制, 正統的周辺参加: 学習科学の理論具現
「開かれた倉庫」の創出: アフォーダンスの効かせ方
- ▶ **技術支援 (Technology & Skill Support):**
PCサポート, 学習スキルサポート, 情報探索サポートほか
ワークショップ開催ほか **プレFDIに結び付ける**

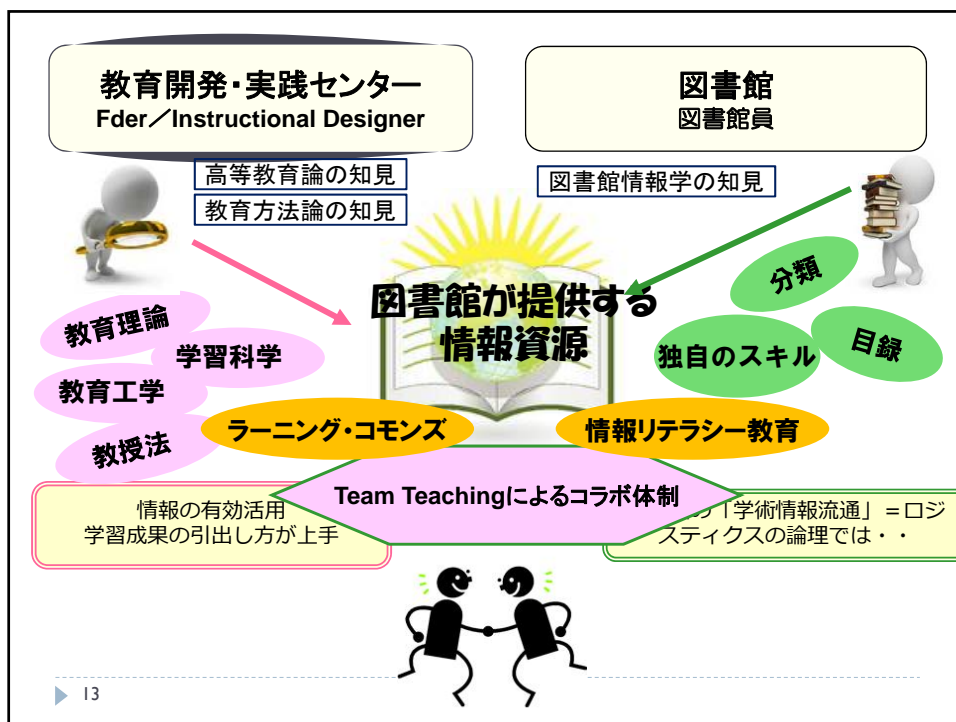
▶ 11

III. どのような組織・運営体制なのか

学習支援のための人的支援の配置

- ▶ アカデミック・インストラクター (専属教員2名)
- ▶ ライティング・インストラクター (専属職員1名)
- ▶ 学習支援コーディネーター (職員1名)
- ▶ ラーニング・アシスタント (大学院生数名)
- ▶ 情報探索アシスタント (図書館から1名)
- ▶ 留学コーディネーター (国際センターから1名)
- ▶ 留学アシスタント (国際センターからの数名)
- ▶ ICTサポートスタッフ (ITサポートオフィスから数名)
- ▶ プリントステーション・スタッフ (業務委託2名)
- **運営主体は学習支援・教育開発センター**
関係部署間の連携軸 (図書館, 学生支援センター, キャリアセンター, 国際センターほか)

▶ 12



IV. どう学習支援を展開する(つもり)なのか

図書館の考える「学習支援」の限界

- ▶ 教育理論・学習科学が教職協働の共通言語
- ▶ 図書館での情報リテラシー教育の弱点
=「情報を使って、学習成果(アウトカムズ)を出すプロセス全体を指導するサービス」になっていない。

IV. どう学習支援を展開する(つもり)なのか

◎科学技術・学術審議会 学術分科会
研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会

「大学図書館の整備について」(審議のまとめ)

—変革する大学にあって求められる大学図書館像—

2010年12月3日

1. 大学図書館の機能・役割及び戦略的な位置付け
(3) 大学図書館に求められる機能・役割
① 学習支援及び教育活動への直接の関与
2. 大学図書館職員の育成・確保
(2) 大学図書館員に求められる資質・能力等
① 大学図書館職員としての専門性
② 学習支援における専門性
③ 教育への関与における専門性
④ 研究支援における専門性

→◎科学技術・学術審議会 学術分科会

学術情報委員会 (2013~学術情報とActive Learningの関係)

▶ 15

IV. どう学習支援を展開する(つもり)なのか

学術情報とアクティブ・ラーニングの関係

▶ 学術情報委員会(科学技術・学術審議会, 学術分科会)

「学術情報がアクティブ・ラーニングに果たす役割を
明確にしてほしい」

従来:モノ(情報)があって,配信する【モノ重視】

学術情報流通:ロジスティックスの視点で語りすぎた
きらいあり(インフラ面に偏重)

今後:行動があって,モノ(情報)で人の「認知」を変える

【コト重視】

▶ 16

IV. どう学習支援を展開する(つもり)なのか

学術情報リテラシー教育を 学習支援の視点から捉える

- コンピュータ利用, 情報探索・情報検索に関わるスキル
情報を入手するには, 入手するためのツール(道具)をよく知り,
その使い方を学ぶことである。



○ツールスキルから情報利用のコンピテンシー

上記に加え, 入手した情報・資料の可用性を検討したり, 批判的に読み解き分析して, 具体的な知的成果物を創造するプロセス全体に亘るもの(=問題解決能力)をプログラム化

▶ 17

IV. どう学習支援を展開する(つもり)なのか

情報リテラシーの定義

情報リテラシーを持っている人は, つまるところ, 学習の方法を知っている人である。学習の方法を知っているのは, 情報がどのように構造化されているか, 情報をどのように見つけるか, どのように利用すれば他人が自分の成果を撮取して学んでくれるかを知っている。

また, どのような作業や判断においても必要な情報を見つけることができるので, 生涯を通じて学んでいく。

*ALA, Presidential Committee on Information Literacy,
Final Report (1989)*

▶ 18

IV. どう学習支援を展開する(つもり)なのか

学習 (学ぶ) とは何か

- ▶ 日々得る情報(モノからヒトから)を批判的に摂取し, 新しい知識を創るために, 頭の中の思考のスキーマ, インデクスを更新し, 知識を再定義・再構成するプロセスそのもの。



Fabulous!!

エルゼビアサイエンス ライブラリ・コネクトセミナー
「情報リテラシー教育」(2009. 12, 大阪会場)

▶ 19

IV. どう学習支援を展開する(つもり)なのか

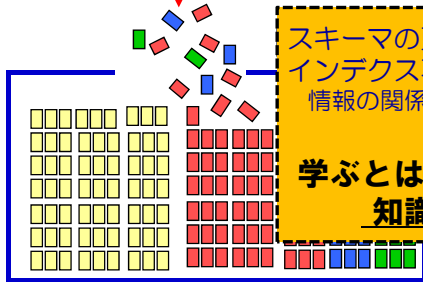
学習 (学ぶ) とは何か ≡ 情報リテラシー

データ読み込み

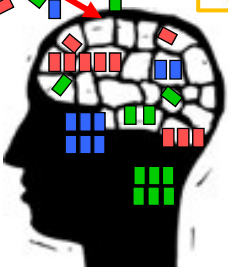
情報取得

決められた構成定義 (スキーマ) によりインデクス化

- ① その都度その都度,
- ② 構成定義 (スキーマ) を再定義し, インデクスの再編成を行う



スキーマの更新, インデクス再作成
情報の関係づけ, 意味づけ
↓
学ぶとは, 自発的な知識の変容



▶ 20 データベース

頭の中の認識データベース

IV. どう学習支援を展開する(つもり)なのか

アクティブ・ラーニングの手法を 学術情報リテラシー教育に取り込めるか

何が必要なのか？



材料となる(学術)情報源
の可用性の理解

学習科学・学習理論および
アクティブ・ラーニング手法
の理解



▶ 21

IV. どう学習支援を展開する(つもり)なのか

Blended Librarian, Embedded Librarianに学ぶ

▶ Blended Librarian :

図書館スキルをIT技術, 授業設計技術, 教育工学等と結びつけて大学の教育現場で活躍する図書館員

The Blended Librarian.

<http://crln.acrl.org/content/65/7/372.full.pdf> (参照 2013-07-01)

▶ Embedded Librarian:

図書館を離れ, 利用者が活動している場から, 利用者と活動とともにしつつ情報サービスを提供している図書館員。
ワークショップのような実践的な情報リテラシー教育が実行でき, 情報の特徴や信頼性を批判的に評価することを, 学生のリサーチプロセスの全領域に関わって指導する。

鎌田均. エンベディッド・ライブラリアン: 図書館サービスモデルの米国における動向. カレントアウェアネス. 2011, no.309, p6-9.

▶ 22

ご参考までに(1)

学習科学・学習理論を理解するために

連載 5分でわかる学習理論講座(全11回). Beating(メールマガジン).
2005, no.11 - 2006, no.22.

<http://www.beatiii.jp/beating/index.html>(参照 2012-01-20)

※連載内で紹介されている文献すべて

中原淳, 金井壽宏. リフレクティブ・マネージャー: 一流は常に内省する.
光文社. 2009.

井上真琴. ラーニング・コモンズは大学図書館を変える. 私学経営. 2013, no.460,
p.30-36.

井上真琴. “大学図書館の学習支援”. 平成24年度大学図書館職員長期研修配付
資料. 2011. <http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/pub/choken/2012/17.pdf>(参照 2013-07-07).

井上真琴. なぜ, ラーニング・コモンズが注目されるのか. 私立大学図書館協会
会報. 2011, vol.135, p.73-87.

井上真琴. FDとの接点から図書館を視る. 丸善ライブラリーニュース. 2009, no.7・8,
p12-13.

▶ 23

ご参考までに(2)

押えておくべき「答申」類など

▶ 2008年3月25日

中央教育審議会「学士課程教育の構築に向けて(審議のまとめ)」
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkoku/080410.htm
(参照2013-07-01)

▶ 2008年12月24日

中央教育審議会「学士課程教育の構築に向けて(答申)」
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1217067.htm
(参照2013-06-08)

▶ 2012年3月24日

中央教育審議会大学分科会大学教育部会「予測困難な時代において
生涯学び続け, 主体的に考える力を育成する大学へ(審議まとめ)」
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkoku/1319183.htm
(参照2013-06-08)

▶ 2012年8月8日

中央教育審議会大学分科会大学教育部会「新たな未来を築くための大学教育
の質的転換に向けて~生涯学び続け, 主体的に考える力を育成する大学へ(答申)」
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm
(参照2013-07-01)

▶ 24